

2022年12月発行

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

vol. 24



りかづみ家

正方形の巨大な布団を逆ピラミッド型に積んだ、だんじりと同様の練物 **布団太鼓**



特集／企画展示
日下の祈りと祭礼展
—布団太鼓は祭の魂、民地の誇り—

pick up!
オルゴール展
郷土の人々紙芝居画展

歴史コラム
日下の嘶「日下村天満宮社と神仏分離」
河澄家の自然 ナンテン・センリョウ・
マンリョウ

展示・イベントのご案内



展示・イベント

「書道展」

2022年12月1日(木)～2023年1月15日(日)

「バルーン体験教室」

2022年12月3日(土)

「立体切紙 キリッタイをつくろう！」

2022年12月11日(日)

「クリスマス会～手作り工作とレクリエーション～」

2022年12月18日(日)

「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



かわさみ家

2022
Dec.
vol.

24

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

目次

04 特集 日下の祈りと祭礼展 - 布団太鼓は祭の魂、氏地の誇り -

毎年恒例、石切劔箭神社と氏子地区の祭礼と布団太鼓をテーマに展示

06 日下の嘶 日下村天満宮社と神仏分離

かつて日下にあった天満宮社のお話

08 イベントレポート

クラフトバンド手芸教室

カラーワイヤクラフト教室

朗読劇公演 雨月物語 白峯

古代体験会 はにわをつくろう

講談郷土の人々

近畿大学峰滝ゼミ REPORT

紙飛行機短冊と縁日ゲーム / 風鈴づくり

10 Pick Up

オルゴール展

郷土の人々紙芝居画展

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然

ナンテン・センリョウ・マンリョウ

南天 / 千両 / 万両

旧河澄家の庭では、花のなくなる冬に真っ赤な実を付けるナンテン、センリョウ、マンリョウが目を楽しませてくれています。それぞれ、メギ科ナンテン属、センリョウ科センリョウ属、サクラソウ科ヤブコウジ属と全く別の科の植物ですが、日本では昔から、常緑で赤い実を付けることから縁起物と解され、庭木として好まれました。和名の南天は難を転ずるといわれ、また千両、万両は富や商売繁盛、祝福を意味し、正月飾りなどに使われています。見分け方のポイントは葉の形と赤い実の付き方です。ナンテンは、ブドウの房のように一枝に連なり、葉縁はセンリョウ、マンリョウに比べつるりとしています。センリョウは、赤い実が上に向かって付き、葉縁が尖ってギザギザとしています。マンリョウは、赤い実がサクランボのように、垂れ下がり、葉縁が波形をしています。今度、見比べてみて下さいね。

日下の祈りと祭礼展

「布団太鼓は祭の魂、氏地の誇り」



日下の旧布団太鼓模型（大・中・小の3サイズの模型があり、こちらは入口に展示した中サイズ）



2022年夏季大祭昇番以外の布団太鼓模型
(左から植附、芝、日下)



2022年夏季大祭昇き番の辻子の布団太鼓
模型（期間中後半に展示）



枚岡神社氏子地区の布団太鼓模型
(左から河内、喜里川、額田、五条、宝箱)



模写した土路幕のレーザーによる彫刻



この旧河澄家の所在する日下は石切劔箭神社の氏子地区であり、日下の布団太鼓を格納する太鼓台庫は、この旧河澄家にたいへん縁のある丹波神社にあります。かつて、この旧河澄家の棲鶴楼に隠居した元大坂西町奉行で日下村の領主曾我丹波守吉祐は、善政を行つてこよなく村民に慕われ、その遺徳を偲んで創建されたのが丹波神社です。

コロナ禍で中止されていた石切劔箭神社の夏季大祭と秋季大祭は3年ぶりに開催され、日下では秋季大祭で新調太鼓台が初めて登場し、祭を待ちわびた人たちで賑わいました。石切劔箭神社夏季大祭では、氏子地区である日下・辻子・芝・植附は一年ごとの輪番制で布団太鼓を出します。これを「昇番（かきばん）」と呼び、今年の昇番は辻子でした。残りの日下・芝・植附の布団太鼓は、秋季大祭で見ることができます。

祭礼展は、旧河澄家にとって恒例の企画展示ですが、今年で7年目を迎えました。

当初の企画書を見ると、その目的には、これまで報告や調査研究がほとんどされて来なかつた石切劔箭神社の祭礼を解き明かし、地域をつなぐ祭の文化や歴史の記録という客観的な視点に立ち、地域住民が自らの地域について考える一助となることを目指すと書かれています。今回の展示は原点に立ち返り、石切劔箭神社のユニークな祭礼である大幣神事の大幣を取り上げました。また、例年のように、だんじり・布団太鼓模型コレクター



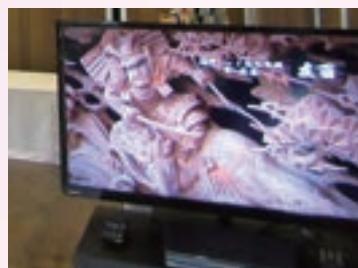
オイタメ、神輿、お迎え提灯模型



オイタメを組む一丸太の先端に御幣と扇を取り付ける※



1960年頃、夏季大祭の辻子の青年団※



期間中、日下太鼓台新調記念のDVDを放映



淡路型布団太鼓



7年分の祭礼展をまとめた

展示解説書



大阪型だんじり模型（小）



大阪型だんじり模型（大）

である大宮顯秀氏からお借りして、この地域の布団太鼓模型を中心に、だんじりの模型なども展示了しました。

今回取り上げた石切剣箭神社夏季大祭での大幣は、7m3本あり、神輿を先導するように氏子地区を練り歩きます。この大幣は通称「オイタメ」と呼ばれ、氏子地区内を巡行し、このオイタメを依代として疫病や災厄を集め、神社に移行すると考えられる神事です。このオイタメは、石切神社の宮司が制作するのですが、3枚の扇と350枚の御幣を白い布を巻き付けた丸太に組むのは、現在では野村和雄さんの一族の仕事だということはあまり知られていません。今回の展示では、この野村和雄さんにオイタメについて取材し、オイタメを組む作業やオイタメの俗説など、貴重なお話をパネルにし、紹介させていただきました。写真も提供いただき、オイタメを組む際の写真や白黒写真などもパネルにし、今も昔も変わらない祭の熱気を感じていただけるようにしました。（※がついた写真は野村氏提供）

日下の布団太鼓模型は、先代の布団太鼓の模型であるため、シモダイドコでは、モニターを設置して日下地区の太鼓台新調を記念した制作したDVDを放映し、新しい布団太鼓について紹介しました。

最後に、皆様にこの地域の祭礼についての理解を深めていただければと7年分の祭礼展のパネルをまとめた展示解説書を設置して閲覧していただきました。



豊かな自然と文化の街、日下

駒山麓～日下地域、河澄家の
過去から現在に至るまでのおはなし

享和元年（一八〇一年）に刊行された『河内名所図会』の第五巻には、大龍寺とともに正法寺の境内の様子が描かれ、十棟を超える建物が描かれており、特定はできないものの鎮守天神社の社もその一つに描かれているものと考えられます。

明治新政府によって明治初年（一八六八年）に打ち出された神仏分離令（じんぶつぶんりれい）により、神道を中心とする神道国家政策に沿って、多くの寺院や仏像などが取り壊される廢仏毀釈（はいぶつきしゃく）が全国的に行われました。

正法寺は明治四年（一八七一年）までは当時この地域を管轄した堺県によって日下郷学校の校舎として使われていましたが、生徒数が増え明治五年には近くの大龍寺に移され、その後正法寺の本堂は売られて寺は荒廃し、明治四十年頃には土塀が残るのみとなりました。現在この地は住宅地となり、当時から境内にあつたとされる二本の楠の大木が残るのみとなっています。

仏教寺院だけでなく、明治政府は神社制度の整備と共に当時数多く存在した神社についても各地で小祠廃併合が行われ、河内地方でも明治五年（一八七二年）八月に枚岡神社少宮司高宮正路から教務省宛てに提出された届出書「河内国河内郡合祀」にあるように、河内郡全体で三十一社が枚岡神社や石切剣矢社等の六社に合祀されました。

この日下地域においても剣矢上之社（芝村・神並村）・天満宮社（日下村）・春日社（日下村池之端）・春日社（日下村布市）の四社は石切剣矢神社に合祀されました。この四社の内、剣矢上之社（芝村・神並村）と春日社（日下村布市）は明治十二年に、春日社（日下村池之端）は明治十三年にそれぞれ地域の請願によつて復社しましたが、天満宮社（日下村）は、復社されることはありませんでした。

天満宮社は潰され、石の鳥居は近くの寺に移されたとの記録がありますが、今はその姿を見ることはできません。

日下町一丁目の丹波神社の南側で、かつて御所ヶ池があつた一帯周辺には明治時代の初期まで正法寺という寺院があり、その境内には鎮守社として天満宮社（てんまんぐうしゃ）が祀られています。この正法寺は、江戸時代に『雨月物語』などで知られる小説家上田秋成が自らの療養のため日下村に逗留した際に一時滞在した場所として知られています。宝暦九年（一七五九年）に大坂城代寺役秋原藤七郎宛てに差し出された届出文書には、正法寺の寺域には、本堂・庫裏・方丈・上藏・下藏・客寮・薪納屋・下廁屋・釣鐘・表門・裏門など十棟あまりの建物に加えて鎮守天神社があり、その社の御供田として四筆（四区画の土地）が付けられていたことが記されています。

日本では古くから、日本土着の神道と飛鳥時代に伝来した仏教が融合して生まれた神仏習合（しんぶつしうごう）が、千年以上もの長きにわたり続けられ、その一つの形態として寺院を守護する神社が同じ敷地内で存在することも珍しいことではありませんでした。

河内国河内郡合祀	
八幡社	近田井村坐
八幡神社	瓦条村坐
八幡神社	吉川島村坐
春日社	春吉村坐
善通寺東社	西条村坐
立田社	河村坐
日吉社	原木露村坐
八坂社	池島村坐
八坂社	河村坐
太神社	西村坐
三莊社	西村坐
恭喜八幡社	福万寺村坐
春日社	西村坐
八幡神社	西村坐
山神社	西村坐
稻光舍社	西村坐
天満宮社	西村坐
劍次上ノ社	西村坐
天満宮社	西村坐
春日社	西村坐
春日社	西村坐
以上右側御次社ニ合祀社例	西村坐
水神社	西村坐
春日社	今来村二坐
春日社	中新郷村二坐
以上吉原村ニ坐遷國社ニ合祀社例	西村坐
稻荷社	六万寺村二坐
八幡神社	西村二坐
以上六万寺ニ坐遷國社ニ合祀社例	西村坐
井吉社	上ノ島村二坐
以上同村ニ坐遷國社ニ合祀社例	西村坐
若狭社	市邊村二坐
以上同村ニ坐遷國社ニ合祀社例	西村坐
右之連合社社例此成後當申上候以上	西村坐
正月八日	

河内国河内郡合祀

「河内国河内郡合祀」明治五年



『河内名所図会』に描かれた正法寺（享和元年（1801年）刊行）



現在の正法寺跡の楠（中央後方）



正法寺跡の楠（昭和初期頃）

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report



クラフトバンド手芸教室

一〇二年九月十一日（日）開催



熱心に講師の話を聞く参加者



カゴを制作中



制作中の参加者



カラーワイヤの自転車

クラフトバンド手芸創作家佐藤順子様を講師にお招きして、紙製のクラフトバンドで小物入れを作る、クラフトバンド手芸教室を開催しました。今回は時間の関係で講師により予め切りそろえて準備してもらつたクラフトバンドを、素講師の指示に沿つて順番に編み上げて行き、素敵な籠の小物入れが出来上りました。子供だけではなく大人も楽しめる手芸教室で、昔懐かしい竹細工のような感じの作品が出来て良かったです、とても分かり易く親切に教えていただけてかわいい籠ができました、短い時間でいいのができました、などの感想をいただき、二時間のイベントを存分に楽しんでいただきました。

カラーワイヤの製造販売会社で東大阪市に工場がある日本化線株式会社の指導協力により、カラーワイヤと工具でアクセサリー作りを行う催しを開催しました。カラーワイヤは針金をカラフルな色の樹脂で覆ったクラフト用の材料で、ラジオペンチなどの工具を使って曲げる、ねじる、巻き付けるなどの加工を簡単に行うことができます。今回の催しでは三色のカラーワイヤを加工してカラフルな三輪車のアクセサリーを作りました。参加者からはワイヤで三輪車ができる事を知らなかつたので新しいことが発見できたと思いました、上手にできて良かったです。また色々なを作りたいと思いまますと、新たな楽しみを発見する一日となりました。

今年もあんがいおまる一座をお招きして朗読劇『雨月物語 白峯』を公演いただきました。あんがいおまる一座には当家ゆかりの人物である上田秋成作の怪異小説『雨月物語』全九編の中から毎年一編を、朗読の中に必ず芝居部分を挿入した朗読劇の形式で公演いただいており、今回で六編目になります。参加からは、非常に迫力があり

演劇『雨月物語 白峯』を公演いただきました。あんがいおまる一座には当家ゆかりの人物である上田秋成作の怪異小説『雨月物語』全九編の中から毎年一編を、朗読の中に必ず芝居部分を挿入した朗読劇の形式で公演いただいており、今回で六編目になります。参加からは、非常に迫力があり

演奏された音楽も効果的で良かつた、話題の内容も歴史的なテーマから政治にかかると幅広く見えたえがあつた、非日常の空間などそれぞれを演出で楽しむことが出来、朗読劇の面白さを満喫いただく一日となっていました。



悪靈となつた崇徳院の登場に驚く参加者



西行の登場

朗讀劇公演『雨月物語 白峯』草香山の自然と史跡を巡る

一〇二年九月十一日（日）開催



旧河澄家HP
イベント情報



思い思いのはにわを作る参加者



焼き上がったはにわ

「古代体験会　はにわをつくる！」を開催しました。まずははじめにスライドを使って古代のはにわについて学びました。古墳の周囲から出土するはにわの中には力士の姿をしたはにわも発見されることがあり、古墳時代に相撲の原型のようなことが行われていた、などの興味深い話を聞くことができました。その後粘土を特別な器具でくり抜き、顔や手を付けて個性豊かなはにわを作りました。参加者からは作るのは難しかつたけど楽しかった、作るだけでなくはにわの話を聞けて楽しかった、など大人も子供も一緒に楽しんで思い出に残るイベントとなりました。



旭堂南龍さんによる講談

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
 Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
 Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
 Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/

古代体験会

はにわをつくる！

一〇三年九月二十三日（日）開催

講談　郷土の人々 楠正成の最期

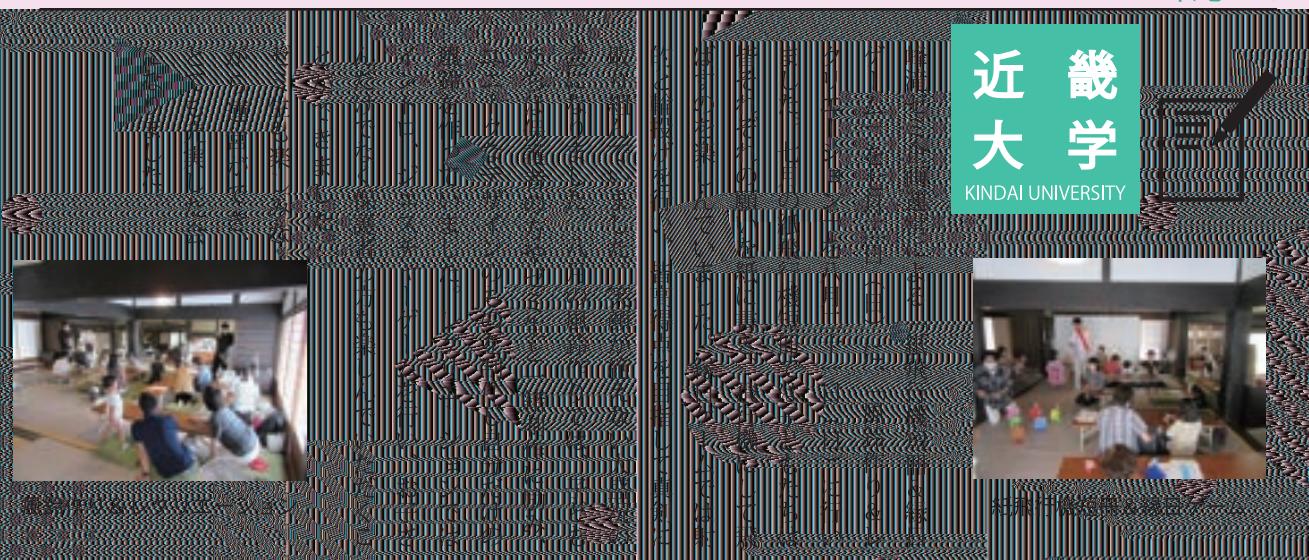
一〇三年九月二十五日（日）開催

東大阪出身の講談師旭堂南龍氏をお招きし講談「郷土の人々 楠正成の最期」を開催しました。この催しは昨年に引き続いて二回目で、講談を生で楽しむことができるとともに、地域ゆかりの人物について講談を通して分かりやすく

知ることができます。初めて講談を聴いた参加者は、講談は難しいと思っていましたが、旭堂南龍さんの講談は迫力と臨場感に包まれて素晴らしかった、楠正成の最期についての話に加えて、一休さんのお話は笑いもあり素晴らしいと講談を存分に楽しむ催しとなりました。

峰滝ゼミ

近大
KINDAI UNIVERSITY



オルゴール展

東大阪市町工場のオルゴールコレクター川勝親氏が
学生の頃から集めたコレクション約160点を展示しました。



二〇二二年六月二十二日～七月十七
日の期間でオルゴール展を開催しまし
た。

川勝氏は学生時代からお土産物の
オルゴールの音に惹かれ、収集し始め
たといいます。川勝氏によると「昔は
全国各地にオルゴールは売っていた
し、オルゴール博物館や展示即売場が
日本各地域にあつたが、今や高価な才
ルゴールを展示する場所しか残ってい
ない。静かな癒やしのゼンマイの音
楽・オルゴール。静かに聞いていたら
本当に心が癒やされる思い。今まで密
かに集めていたが、このご時世、コロ
ナ・ウクライナ問題など、嫌なことが
多すぎる。その中で私のコレクション
が役立つのなら、触って、体感して、
安らぎを！」とのことで、そのコレク
ションを展示させていただきました。

会場では見学者がオルゴールのゼン
マイを自分で巻いて思い思いのオル
ゴールの音色を聴くことができま
した。中にはユニークな電子オルゴー
ルもありました。またオルゴールとは
別にホラ貝など大型を並べて、貝殻を
耳に当てるなど砂浜に打ち寄せる波の音
のような音を聴く体験コーナーも設置
されました。見学された方はユニーク

な形のオルゴールを見て触って音色を
聴いていただき、日頃体験できない体
験ができて良かったとの感想をいただ
きました。



貝殻に耳をあてて音を聞くコーナー



オルゴールの歴史パネル解説



ベルの形をしたオルゴール



ユニークな電子オルゴール



ピアノ形、音色の電子
オルゴール



様々なオルゴール

郷土の人々紙芝居展

今年で二回目となる今回の展示では、宮本直樹氏の「楠木正行」を始めとする、超絶の出前紙芝居作品の中から、郷土東大阪ゆかりの人々を描いた、「ワカタケルとワカクサカ」「神武天皇東征記」、「楠木正行もここにあり！」という三作品の紙芝居画を展示了しました。



『ワカタケルとワカクサカ』 ワカクサカと呼ばれる若日下部王はワカタケル（雄略天皇）の皇后で日下に住んでいたと『古事記』に記されています。雄略天皇は「日下の直越」を通って、日下の若日下王の元に「妻問い合わせ」に来たことが記されています。



紙芝居 神武東征



紙芝居
ワカタケルとワカクサカ

『神武天皇東征記』 神武天皇は兄たちとともに九州の日向から瀬戸内海を経て河内に到り、日下の盾津に上陸します。しかし生駒を越えてきた大和の豪族長髓彦と孔倉衛坂で迎え撃たれ、進路を阻まれたうえ、兄の五瀬命が矢にあたつて負傷し、敗退します。その後海路で紀伊の熊野から苦難の末大和に入つて国内を平定し橿原の宮で即位して最初の天皇になつたとされています。



紙芝居展示風景

二十五日の期間、「お寺の出前！紙芝居屋亭」宮本直樹氏（大阪府河南内郡河南町観念寺住職）の紙芝居原画作品を展示する「郷土の人々紙芝居画展」を開催しました。

『ワカタケルとワカクサカ』 ワカクサカと呼ばれる若日下部王はワカタケル（雄略天皇）の皇后で日下に住んでいたと『古事記』に記されています。雄略天皇は「日下の直越」を通って、日下の若日下王の元に「妻問い合わせ」に来たことが記されています。

『神武天皇東征記』 神武天皇は兄たちとともに九州の日向から瀬戸内海を経て河内に到り、日下の盾津に上陸します。しかし生駒を越えてきた大和の豪族長髓彦と孔倉衛坂で迎え撃たれ、進路を阻まれたうえ、兄の五瀬命が矢にあたつて負傷し、敗退します。その後海路で紀伊の熊野から苦難の末大和に入つて国内を平定し橿原の宮で即位して最初の天皇になつたとされています。



自作の紙芝居を披露する宮本住職

郷土の人々紙芝居公演会

一〇二二年八月二十六日（月）開催

しました。その後再び正行は幕府軍との四條畷の戦いで激しい戦闘を繰り広げましたが惨敗に終わり、正行ら一族郎党はほとんど討死しました。正行ゆかりの河内のこの地域では今でも小楠公として崇められています。

宮本直樹氏による郷土の人々紙芝居公演を開催しました。展示の郷土の人々紙芝居三作品に加えて、仏教説話である『供命鳥（ぐみょうちよう）のおはなし』を公演いただきました。参加者からは、紙芝居を通じて地元に関する歴史を分かり易く楽しく楽しみながら見聞きいたしました。子供と大人も一緒に楽しめる紙芝居を初めて経験し、大変良い機会でしたと好評をいただきました。

河澄家の家紋



丸に三つ違い沢瀉

2022年12月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性がございます。詳しくはお問合せください。

書道展

12/11 (日)

書家川上佳香氏と深川秀凰氏の書と生徒さんたちの作品を期間中、それぞれ二期に分けて展示します。川上氏の展示は、12月1日

～2023年1/15 (日) (木)～20日(火)まで、深川氏の展示は、

12月23日(金)～2023年1月15日(日)までとなります。書道の魅力を再発見すること間違いなしです。

見学無料



クリスマス会～手作り工作とレクリエーション～

12/18 (日)

近畿大学の峰滝ゼミの学生さんたちと一緒に、楽しいクリスマス工作（サンタクロースと靴下）とゲームをします。サンタさんからのプレゼントもあるかもしれません。

3歳以上のお子様は保護者同伴で参加可能です。お友達を誘って、遊びに来てくださいね。



参加無料

東大阪市指定文化財 旧河澄家

見学無料

所在地	〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号	TEL/FAX 072-984-1640
ホームページ	http://www.kyu-kawazumike.jp
開館時間	午前9時30分～午後4時30分
休館日	月曜日(祝日の場合は翌日) 祝日の翌日・12月29日～1月3日
入館料	無料
駐車場	5台(無料) 満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆アクセス方法

公共交通機関をご利用の場合

- 近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約20分
- 近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約20分
- 近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四条嶺行き」または「住道行き」に乗車「南日下」バス停より徒歩15分
- JR学研都市線「住道駅」または「四条嶺駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗車「南日下」バス停より徒歩約15分

マイカーをご利用の場合

- 旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861
FAX: 072-952-4340

URL <http://www.asuwel.co.jp>
E-mail mail@asuwel.co.jp

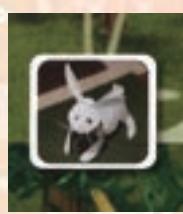
立体切紙 キリッタイを作ろう！

12/11 (日)

キリッタイは子供の頃から工作が大好きな大東守さんが考案した立体切紙で、様々なものを表現します。

今回は、大東さんオリジナルのキリッタイのキットを使って、来年の干支である卯一ウサギを作ります。参加費は500円です。

是非、ご参加ください。



論語の素読会

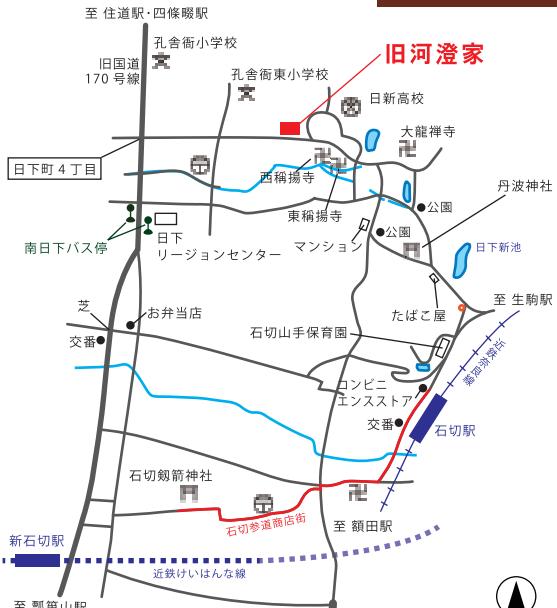
毎月
第2・第4
土曜日



声に出して文字を読む「素読」。
素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言語をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。

参加無料

旧河澄家周辺図 (詳細)



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。



JISQ9001:2015(JISQ9001:2015)/全事業所
JISQ14001:2015(JISQ14001:2015)/全事業所
建築物総合清掃保全管理・施設保守管理・建物物
・衛生管理・人材派遣・警備保守・指定管理



20000775